

令和5年度 第2回小佐野公民館運営審議会 結果

日 時 R6.3.7 10:00～11:15

会 場 小佐野公民館 2階小ホール

出席者 委員全員出席

黒田委員長、齊藤委員、千田委員、長谷川委員、多田委員（新）、吉田委員、山田委員（新）

まちづくり課：佐藤課長、浦城主任

小佐野センター：小原保健師、三浦

協議に入る前に、佐藤課長から全委員に委嘱状が交付された（新任が2名。再任も任期が改まったことによる）。

佐藤課長及び黒田委員長からあいさつ（記載略）。

協議事項の令和5年度の釜石市立小佐野公民館運営方針及び実施報告について、資料に基づき館長から説明。（略）

◆質疑等

委員長）事務局から、今年度を実施した事業について報告があった。

ご意見ご質問がありましたら発言願いたい。中身的には、従来とさほど変わらない内容。前任者から引継いだ所長は1年目だったので、やりづらいところも結構あったと思われる。コロナでもあったが、個人的には一番公民館まつりに期待していた。ここ5年ほどやっていないが、令和6年はやる方向で計画的なスケジュールを立てていただき、皆さんに頑張ってもらおうということでよろしく願いたい。

令和6年の方針については、改めて皆様に提示したいと思う。

委員）計画段階では話のあった中学校行事とのコラボ、実施できなかったとのこと。吹奏楽でいうと、コンクールの地区大会が7月の1～2週目の日曜日、県大会が8月、文化祭があつて、アンサンブルコンテスト12月のクリスマス、県大会は1月の3連休、これに応じた練習が年中でずっとある。なかなかスケジュール合せるのも厳しいが、直接うちの担当教員と話をしてもらい、練習の隙間を見つけて検討した方がいいと思う。

総合文化部、美術部とのコラボでもいい。高校生ボランティアを入れることも検討可能。

9月25日の絆の日清掃は来年度も実施予定であり、地域の方との連携、交流をもっと深めながらと考えている。

委員長）応援センターを核として、中心として回してもらえれば、もう少しコミュニティが図られる気がする。

何年か前に生徒たちが自分の住んでいる地域の避難場所、危険な場所を調べた。そういう一つ一つの実績があるので、それを今度はいかに広報していくかということ。今回の防災訓練で取り入れたラインを使った避難情報の把握、こういう手法を取り入れて実践させるのもひとつの手だと思う。

課長) 自分の住んでいる地区について子供達を知るというのは、防災系では意外とやっている。その一方で、歴史を知るというのはなかなか行われていない現状。

委員) 職場体験学習等でも検討したい。

委員) コロナで世の中が振り回されていたのが落ち着き、それに伴って会館の活動も、今まで中止になっていたのが再開できたりもしている。4月以降は館長も2年目ということで、ぜひステップアップして欲しい。

パッチワークとか子供食堂といった新しい事業も始まった。

子ども食堂には私も2回参加しましたが、すごく盛り上がり良かったと思う。

新しい事業が始まったり、中止したり、もうやめましようっていう事業も出てくると思うが、人の参加状況を見たり、その辺を上手く見極めて、公民館活動を続けていただきたい。一つだけ質問ですが、会館の3階まで上がるのが私自身すごくつらいし、町内会メンバーからも、行きたいが3階まで上がるのは大変、2階でも大変だという声が聞こえてくる。雨漏りは修理すれば直るが、3階までエレベーターをつけるのは難しく、何か方法はないものか。本来は新しい会館が建っているはずだったが、これも白紙の状態。足腰の悪い方をはじめ、障害者、車椅子の方の声も聴きながらやっていただきたい。

課長) 甲子公民館や図書館には、座ったまま上の階に運んでくれる介護椅子(エレベーター)を取り付けた。小佐野でも取り付けようと試み、専門業者に調べてもらったが建物の老朽化や構造的に強度が足りず、甲子等と同様のものは取り付けられないとのこと。最新の製品ではどうなのか、注視し、期待したい。

委員) 公民館だより、ちゃんと読んでいるつもりではいたが、いろいろな行事をたくさんやっていて、素晴らしいと思う。子供がボーイスカウトに入っているが、参加者不足で今年度は実施できず残念。子供たちが集まるような工夫をしていただければと思う。

委員) 子ども食堂、やはり多くの皆さんの協力がないとできないことだと改めて認識した。小佐野は大きい所帯なので、やり方を考える必要がある。

委員) 本当に学校と地域の方に支えられていると毎回思う。特に今年は子供食堂につい

て2回参加させていただいて、スタッフの多さに驚いた。高校生だけでなく、地域の方の中にはいろいろな資格を持っている方もたくさんいて、保育士、調理師、栄養士といった方々がいるおかげで、安全に食事を提供して頂けた。本当にありがたいと思う。子供たちもすごく楽しんで、一日を過ごして帰っていきました。シチューは何回もおかわりする子もいた。

それから、特にこれはとても良い活動だと思ったのは、この資料5番に書かれていないが、チームオレンジ・こさのの活動でジュニアサポーターとして認定していただいていること。一回目はアミーガはまゆりさんの方に講座していただいた四年生、それから五年生は応援センターの方々に来ていただき、お芝居が披露された。お年寄りの方々の状況を知り、子供だけじゃなくて、我々にとっても本当に良い学びの場になりました。

担当課職員) 小佐野地区では多様な行事が実施されている。参加者確保はどこも課題。生涯学習係としても考えていきたい。

委員長) 地域会議の中で小佐野が一番人口が多い。19町内会、約7700人いる。子ども食堂にしても実施は大変。しかし2回の実績から、地域のコミュニケーションを作るには大変なのはわかるが、民生委員さんにも頑張ってもらいたい。それにプラスして男性の力も少し加えろとか、オブザーバー的に入れるとかすれば、皆さんの肩の荷も降りると思う。そのためにももう少し計画的に、プロセスを作り上げてやられたらいいのではないか。皆様から米や水ももらおうとか、できるだけ自分らで作ったもので段取りができれば。個人的には、子ども食堂は少々受け入れにくい。そもそもが貧困対策であって、やり方を十分考えないと誤解を招きやすい側面がある。自分も高齢者。地域の一人暮らしの方も呼んで、少し地域性を持たせた、例えばふれあい食堂だとか呼び方を変えてはどうか。

課長) 鵜住居だったと思うが、子ども食堂というとマイナスなイメージがあるので、ネーミングを検討している。小佐野の地域の中で食堂という形式でいいのかどうか。はじめは、本来の目的である貧困対策を前面に出してという話もあったが、それをやると、そこに来ている子供たちはそうなのかと、親御さんたちの間で情報が伝わってしまうということに危惧して、早い段階からそういうのではなく居場所づくりから始めましょうということになった。そういう意味では地域にも協力してもらったり、明治安田生命さんが入ったりというのは一つの成果といえる。他から見に来る人も増え、初めて取り組む平田でも、私たちならこういう風にやるよと、違うやり方が地区地区であって、変わったやり方を考えると、違う意味を持たせてやるのはいいことだと感じた。子ども食堂という名前じゃないのどうかという話も出ていたと聞く。

委員) 食堂イメージはちょっとマイナスイメージがある。

委員) 居場所づくりの子ども食堂というのが世間に知れ渡っている。娘の嫁ぎ先に行っていた時、子ども食堂という名前を使いながらも、「子ども食堂なかよし」というところもあった。子ども食堂という名前を全然外してしまうと、これ何だっということにもなるし、難しいことだと思うが、ネーミングに対しては考えていきたい。

課長) 一人暮らしの高齢者とか、そういう人たちも入れるという話をチラッと聞いた。子供に限らなくていいと思う。それで、どれぐらいの規模でやるかをよく考えてみては。

委員長) ネーミングは徐々に。公民館だよりで公募するとか。

委員) 反省点はしっかり受け止めて、どんどんやっていくことで良い結果を導くように続けていきたいと思う。

課長) チームオレンジ・こさのジュニアは全国で初。ジュニアでないのは、釜石でも他にいっぱい立ち上がってきている。去年は矢巾と交流会の予定もあったが、台風で実現できず。ジュニアもまた少しずつ育ってきている。子供達から力をもらうというのは実際にある話。

委員長) 本来の地域包括ケアの一つの活動として、継続してもらえば良いと思う。

事務局員) 来年度から釜石 21 プランという自殺対策とか健康増進計画とかが改正される。子供のメンタルヘルスについては、全国的に小学生の自殺率も上がってきている中で、取り組みに力を入れたい。脳卒中講座も増やしたい。脳卒中の死亡率が釜石は高く、働き世代とか子育て世代の親御さんから高齢者の方まで、ご自身で健康を守っていけるように努めていきたいと思えます。

委員長) 応援センターは地域の核なので、何かあったら遠慮なくお話になってほしい。皆さんもお年をとると、いつ倒れるかわからない。血圧についても十分注意し、また、今は寒い時期なのでヒートショックにならないように。自分の健康には気をつけてこの一年元気に過ごしていただきたい。

事務局員) こちらで何か行事やるにしても、うちだけでやるものではなく、皆さんの協力が是非とも必要になる。今後も引き続き宜しくお願ひしたいと思う。それではこれもちまして令和5年度第2回小佐野公民館運営委委員会を終了する。